

平成27年度第2回さぬき市行政改革推進委員会 会議要旨

日時	平成28年3月15日(火)午前10時～午前11時30分
場所	さぬき市役所4階 第2委員会室
出席者	[委員] 計8名 奈良委員(会長)、頼富委員(副会長)、池上委員、木村委員、高嶋委員、中澤委員、真鍋委員、山本委員 [事務局] 計3名 総務部:穴吹部長 総務部政策課:白井課長、原田係長 [傍聴者] 0名
次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1)行政改革に関する提言書について (2)その他 4 その他 5 閉会
配布資料	・次第 ・行政改革に関する提言書(案)

<内容>

◆提言書案に対する質疑・応答及び意見交換(○:質問 ⇒:回答 ◎:意見・提案)

○提言書案の第3次行政改革実施計画効果額の表の「①歳入確保」について、平成24年度は効果額が△803千円とマイナスになっているが、これはどういうことか。

⇒目標の数値に達しなかったためマイナスとなっている。

○目標数値がこの提言書案には出てきていない。歳入に対して歳出が増えたと誤解してしまうと思うので、表現方法を見直したらどうか。また、さぬき市の総予算や、市民から頂いた市民税に対してどのくらいの効果が得られたのか等を示さなければ、提言書に効果額だけ示されても読んだ人には伝えたいことが伝わらないのではないかと。広報には、人件費や物件費等の市が使った費用が細かく載っているが、それらに対してどのくらい効果があったのか表現するのもいいだろうし、あるいはひとくくりにして市民税全体に対して表現するのもいいだろう。

⇒細かく比較していくことは難しいと思われるが、ご指摘いただいたように効果がつたわりにくいため、少し表現方法を工夫したい。

◎可能であれば、「目標数値」、「結果」、「今後の方向性」を付け加えたらどうか。

◎最初の目標設定をきちんとしておけば結果の分析を行い易い。

○提言書の「1 はじめに」のところは、委員長が作成するのか。

⇒これまでは、市が原案を作った後に委員長が確認して修正等を行うようにしている。

◎行政改革に対するこれからの取組方は、3つあるように思う。1つ目は、市全体の収支を改善するために一つの方法として地産地消を推進すること。2つ目は、本市の認知度を高めるために観光振興に努めること。3つ目は、予算内でメリハリのある予算執行に努めること。地方創生の取組の中で各自治体が競争して活性化策を出してきている。その競争に勝つためには、どこの自治体も行っていないような取組をしていなければならないのではないかと。

◎昨今の少子高齢化、核家族化の進展、介護問題等に対応していくためには、市が行う施策の中身が重要になってくると思う。

◎「(2)開庁時間の延長について」では、現在行っている年度末と年度初めの日曜開庁についても、明記してはどうか。